山都町立潤徳小学校　学校だより

潤徳小伝説～永遠に～

潤徳小HP　令和６年２月１３日（火）　第４２号
２次元ｺｰﾄﾞ ←カラーで見られます！　校　長　池部　聖吾智（みわとも）

「東西潤徳小コラボ」が予想外の化学反応を生む

本校ＨＰ２／６付で掲載しましたが、日野潤徳小からの半日転校生　くんのお祖母さまが、手土産持参で来校されました。その際に、お連れ合い様（お祖父さま）が、山都町出身の大スターである柔道金メダリストの山下泰裕さんと中学時代の同級生で仲良しだったという話題が出てきました。さらに山下さんのルーツが潤徳小校区にもあることを以前地元の方からお聴きしたことがあります。今回こうしてご縁ができましたので、閉校式典にもご招待しました。

もし、お祖母さまが式典に来られたら、お孫さんの通う東京日野市立潤徳小・　校長との「熊本の地で初顔合わせ」が実現します。東西コラボが生んだ予想外の化学反応といえます。

※山下さんは、私にとっても、同じ柔道家として雲の上の存在。数珠つなぎはいまも続行中。

最近、さらに予想外の化学反応が発生しました。こちらについては後日お知らせします。

「予習」に取り組む実践　～ふと、自身の小学時代を思い出す～

「答え与える予習で見通し・安心感」（日本教育新聞2024.2.5付）という記事を読みました。ある東京都小学校教師の実践で、算数と理科で、次時の授業で展開する教科書のページの「まとめ」をノートに書き写すという「予習」を子どもたちに課しているそうです。授業の前半で予習内容について丁寧に解説し、後半は問題解決活動を通して「分かった」「できた」へ導くそうです。

この記事を読んでいて自身の小学校時代を思い出しました。小学校４年後半から社会の教科書の上に書いてある統計資料をノートに写す作業を自主的に始めました。ここで予習の楽しさに目覚め、苦手だった算数も授業の数時間先の単元を自主的に解いていくようになって得意教科に変身しました。その頃から成績が伸び、私は数学教師になりました。私の場合、「予習」効果は大きかったようです。

潤徳抄Ⅱ

先週末、熊本市内某所にて大学時の数学科同級生３人で呑んだ。それぞれ小・中・高に勤務しているので、違う立場からの話ができて面白かった▼また、役職定年まであと１年ということもあり、定年後はどう過ごすのか、資産運用をしているかなどの現実的な話題もあがった▼途中、日野潤徳小の　校長にも写メを送った。閉校式典に参加する日野４人衆は、前日に熊本の夜を楽しむ予定である。写真で熊本の料理を予習していただきたかったのだ笑笑。この日は「バスの日」往復２００円（通常９２０円）で移動できた▼本日、初めて新ＩＣ「山都通潤橋」を利用して出勤した。おかげで出勤時間は９分短縮。関連して、本校児童の出演（5：36～7：25）動画が「【九州中央道開通記念】山都町未来像のビデオレター」という標題でＹｏｕＴｕｂｅ配信されているので、ぜひご覧いただきたい。